

シンポジウム 1 (技術部会企画) SY1-4 高気圧酸素療法教育の現状と課題

中村新一

東海医療科学専門学校

【はじめに】

高気圧酸素療法（以下、HBO 療法）は、特定の疾患に対して有効性が認められている治療法である。しかし、臨床工学技士養成課程においては、症例数および設備を有する施設の減少を背景に、教育現場におけるその位置づけが変化しつつある。HBO 療法教育の変遷と課題、当校における教育実践、ならびに今後の展望について報告する。

【HBO 療法教育の位置づけの変遷】

臨床実習における HBO 療法は、2005 年の「臨床実習ガイドライン」では記載があったものの、2021 年には必須項目から対象外となり、地域の医療提供体制を考慮し可能な範囲での実施が推奨された。さらに 2022 年には、HBO 設備のある施設で実習を行う必要はないことが明記され、2024 年の最新版では項目としての明確な記述が見られなくなった。

【当校における教育の取り組み】

当校では、国家試験出題範囲を考慮し、授業時間を決めており呼吸療法装置学（90 時間）のうち 4 時間を HBO 療法に充てている。講義では基礎知識を中心に扱っているが、設備がないため学内実習は実施していない。臨床実習については、事前学習（外部講師による 4 時間）を経て、愛知県および岐阜県の協力医療機関にてガイドライン改訂後も継続して実施している。しかし、教育効果としては限定的であり、学習の定着や実践力が図りにくい。

【教育現場における課題】

主な課題として、以下の 3 点が挙げられる。第一に、専任教員に HBO 療法の臨床経験者が不在であり、専門的指導が困難である。第二に、臨床工学技士の業務範囲が広がる中で、HBO 療法に割ける教育時間が限られていること。第三に、国家試験では一定数の出題があるにもかかわらず、実習ガイドラインにおいては必須項目とされておらず、学生の学習意欲向上に課題がある。

【今後の展望】

教育の質向上と学生の動機づけを図るには、以下の取り組みが必要と考える。まず、専門性の高い外部講師を招き、最新の知見を取り入れた講義を実施することにより、知識の深化と最新の医療情報を知ることができる。次に、設備の代替手段として VR/AR 技術を活用した疑似体験型教育コンテンツの導入を検討する。また、学生の学会参加を奨励することで、学生が HBO 療法の重要性を実感し、将来

のキャリア形成に繋げることを期待する。さらに、専任教員に対しても研修機会を設け、最新の知識と技術の習得を支援することで、教育現場における理論と実践が密接に結びついた指導が可能となり、教育の質の向上が図れます。

【おわりに】

HBO 療法を取り巻く教育環境は変化しているが、その臨床的重要性を考慮すれば、教育現場での継続的な取り組みは必要である。今後も質の高い教育を提供するためには、教育内容の見直しとともに、HBO 設備を有する医療機関との連携・協力体制の強化が不可欠である。